

1 年生国語科学習指導案

日 時：平成 19 年 2 月 8 日（木）

場 所：1 年生教室

学 級：1 年生（男子 14 名、女子 11 名）

授業者：武藤 ひろみ

1. 単元名 おはなしをたのしもう 「たぬきの糸車」

2. 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、お話の展開が明快で登場人物の人となりもとらえやすく、1 年生の児童にとって親しみを持って読むことのできる物語（民話）である。いたずらものだが憎めない「たぬき」と、優しい「おかみさん」の心の交流は、温かく、共感しやすい。また、行動描写を中心に情景も描かれており、豊かに想像を広げられる作品である。それゆえ、児童一人一人がそれぞれのイメージを持って読み進め、互いのイメージを表現し合うことで、みんなで読み合うことの楽しさを味わうことができる教材であると考えられる。

1 年生の児童は、これまで「はなのみち」「大きなかぶ」「くじらぐも」等の物語文を学習してきた。「はなのみち」では、挿絵から場面の様子などについて想像を広げながら読むことの楽しさを味わってきた。「大きなかぶ」では、登場人物になりきって動作化することにより、より豊かに様子を想像し、楽しく音読することを経験してきた。「くじらぐも」では、場面の様子をより豊かに想像するため、やはり登場人物になりきって動作化したり、自由に会話を挿入して表現したりする学習をしてきた。これらの学習から、想像を広げて読んだり、読み方を工夫して読んだりしようという意識は高まってきた。

本単元では、作品の世界にたっぷり浸りながら、音読や動作化をしたり、想像したことをふきだしに書いたりすることによって登場人物に寄り添い、「お話を楽しみ、場面や登場人物の様子を想像しながら、声に出して読む力」を身につけさせたいと考えている。

(2) 児童の実態

つけたい力から見た児童の実態は以下のようである。

- | | | |
|---|---|------|
| A | 登場人物の行動描写から場面を想像し、読み方を工夫して読むことができる。…… | 3 人 |
| B | 会話文に着目し、
場面や登場人物の様子を想像しながら声に出して読むことができる。…… | 15 人 |
| C | 動作や挿絵の表情等から登場人物の様子を想像することができる。…… | 7 人 |

このような実態から、まず会話文に着目し、おかみさんの様子を想像して音読する力をつけたいと考えている。しかし、本文にはたぬきの会話文が一つもない。それゆえ、たぬきの様子を自由に想像しやすいと考えられる。その子その子のとらえ方や感じ方を大切に扱いたいと思う。

一方、挿絵・動作化などから、たぬきの様子を想像する力もつけたいと考える。そのため、行動描写に着目して、それを動作化したり、たぬきの台詞をふきだしに書いたりすることによって、場面や様子を想像することを学ばせたいと考えている。

自分の考えを発表したり友だちの意見を聞いたりすることで、読み取りを確かなものにしたい。さらに作品へのイメージを広げ、学級全体としての読み取りを広げていきたい。そして、みんなで読むことの楽しさを味わわせたいと考える。また、たぬきの台詞が入った紙芝居を行うことで、声に出して読む力を高めていきたいと考える。

3. 研究テーマにかかわって

研究主題 仲間と共に学び合う子の育成

～考え、学び合い、高まる授業をめざして～

(1) 研究内容1「自らの考えをもつことができるようにするための指導のあり方」に関わって

お父さん、お母さんに、たぬきのかわいい様子がわかってもらえるような紙芝居を作ろう。

という単元を貫く課題を設定し、教材文の読み取りに必然性を持たせる。また、貫く課題の五つの言語意識は次のようである。

相手意識	お父さん、お母さん、お家の人
------	----------------

目的意識	お父さん、お母さんにたぬきのかわいい様子をわかってもらう。
------	-------------------------------

場面意識	紙芝居
------	-----

方法意識	動作や表情からたぬきのかわいい様子を想像して、たぬきの台詞をつくる。
------	------------------------------------

評価意識	どんなたぬきだったか、評価カードにコメントを記入してもらう。
------	--------------------------------

- ・ 前時までの学習の歩みを掲示する。
- ・ 場面の動作化を行ったり、台詞を想像したりすることで、自分の考えがもてるようにする。
- ・ 動作化したことや挿絵を参考にワークシートに台詞やわかったことを書くことで、自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 研究主題2「伝え合う場の設定のあり方」に関わって

- ・ 自分の考えをどのように話せばよいのかわかるよう、話型を示す。
- ・ 動作化することで想像した様子や心情を言葉で表現できている児童を意図的に指名し、価値付ける。

(3) 研究主題3「1時間の学習の評価の場のあり方」に関わって

- ・ 本単元では、作品の世界にたっぷり浸りながら、音読や動作化をしたり、想像したことをふきだしに書いたりすることによって登場人物に寄り添い、「お話を楽しみ、場面や登場人物の様子を想像しながら、声に出して読む力」を身につけさせたいと考えている。本時は、想像したことを音読で表現することができた児童を認め、価値付けていきたい。

本時のねらい

「うれしくてたまらないというように」や「ぴよんぴよこおどりながら」を動作化することを通してたぬきのかわいらしい様子を想像し、自分が考えたたぬきの台詞を読むことができる。

本時の展開

学習内容	教師の指導援助（・）評価規準（＊）
<p>1. 単元を貫く課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">お父さん、お母さんに、たぬきのかわいらしい様子がわかってもらえるような紙芝居を作ろう。</div>	
<p>2. 学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">かえていくたぬきの ようすや せりふを かんがえよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のたぬきの様子を確かめる。
<p>3. 今日の場面を読む。 1回目…音読する。2回目…黙読する。</p> <p>4. たぬき表情を考える。</p> <p>5. たぬきの様子わかる言葉を、教科書（本文）から見つける。（グループ交流→全体交流）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ぴよこんと</u> そとに とび下りました。→びっくり →かわいい ・ うれしくてたまらないというように、→とてもうれしい ・ <u>ぴよんぴよこ</u> おどりながら→楽しい、ご機嫌 <p>6. 「ぴよんぴよこおどりながら」を動作化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ぴよんぴよこ</u>がある方が、楽しそう。 ・ <u>ぴよんぴよん</u>ではないけど、ジャンプしているみたいだから、うれしそう。 <p>7. 帰っていくたぬきの様子を想像して、ワークシートのたぬきの絵にせりふを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったよ。 ・ うれしいな。 ・ 上手に糸車をまわせるようになったよ。 ・ 糸がたくさんできたよ。おもしろかったな。 ・ 糸が全部紡げてよかった。 ・ おかみさん、喜んでくれるかな。 ・ ぼくが糸を紡いだってわかったよね。うれしいな。 ・ 恩返しができてうれしいな。 ・ またやりたいな。 <p>8. 今日の場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作った台詞をどこで読むか（どこに入れるか）を考え、たぬきになったつもりで音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> * すらすら音読できているか。 ・ 糸をつむいでいる場面と、帰っていく場面の挿絵のたぬき表情を比較する。 ・ たぬきの行動描写から、たぬきのうれしい気持ちがわかる言葉を見つけることができるよう、掲示をヒントとして使う。 ・ 自分で見つけるのが難しい児童とは、一緒に読んで考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話型 ・ _____から_____と いう様子がわかります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ たぬきの様子具体的に捉えられるよう「おどりながら」と「ぴよんぴよこおどりながら」を比較する。 ・ <u>ぴよんぴよん</u>、<u>ちょんちょん</u>、などの言葉と<u>ぴよんぴよこ</u>を比較する。 ・ たぬきになりきって動作をしたり、台詞を作ったりしている児童を紹介する。 ・ 友達のよかったところをみつけて、取り入れるよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ 「たぬきはなにがうれしくてたまらないのか。」問う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習してきたことを振り返ってうれしさの理由を話すことができた児童を価値付ける。 * たぬきやおかみさんの様子（や気持ち）を想像した言葉を入れて、感情を込めて音読しているか。

